

教科(科目)	公民(現代社会)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	高等学校 改訂版 新現代社会（第一学習社）				
副教材等	フォーラム 現代社会 2022（東京法令出版）				

1 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- 卒業学年である3学年次に現代社会を履修するため、以下の項目を指導の重点に置く。
- ①青年期の学習を通して、自らの在り方・生き方に対する具体的指針を持てるようになることを目指します。
 - ②社会的事象の要因について理解することを目指します。
 - ③社会的事象に対する自らの考え方を確立できるようになることを目指します。
 - ④社会的事象の要因や、それに対する自らの見解を論理的に説明できるようになることを目指します。

3 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1編 私たちの生きる社会 世界のさまざまな課題 1. 環境と私たちの生活 ①地球環境のいま(1) ②地球環境のいま(2) ③私たちの地球を守るために 2. 資源・エネルギー問題と私たちの生活 ①限りある資源 ②資源問題の解決をめざして 3. 科学技術の発達と私たちの生命 ①科学技術の発達と生命 ②生命倫理をめぐる問題	<ul style="list-style-type: none"> ・これから学習していくさまざまな課題が世界には存在していることを理解する。 ・環境問題と人間の活動とのかかわりについて、教科書掲載の写真や地図を使いながら理解する。 ・環境問題への国際的取り組みを踏まえ、自然と共生するよりよい環境を次の世代に引き継ぐためにはどうしたらよいか考える。 ・地球温暖化対策への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 ・資源の有限性について理解し、原子力発電の問題を例に、資源・エネルギー問題について多角的に考える。 ・エネルギー政策の見直しとともに新エネルギーの現状について理解し、省エネルギーと循環型社会について考える。 ・資源・エネルギー問題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 ・科学技術の発達が社会や生活をどのように変えてきたか考える。 ・医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考える。 ・生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解させる。 	6	定期考査 授業ノート 授業の取組
5	4. 高度情報社会と私たちの生活 ①情報の高度化の進展 ②高度情報社会の課題 第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己の形成 私たちの一日と青年期 ①青年期とは ②青年期を充実させるために ③伝統や文化とのかかわり ④祭りと年中行事 ⑤社会とのかかわり ⑥私たちの生きがい 第2章 個人の尊重と法の支配 私たちの一生と法 ①個人と国家 ②法の支配 ③基本的人権の保障 ④世界の政治体制	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化の進展が社会に及ぼす影響について理解する。 ・高度情報社会で生きていくために必要な知識を身に付け課題についてどう取り組めばよいか考えることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか考え、青年期におけるさまざまな悩みと、それを克服するためにはどのようにすればよいか考える。 ・一人前の人間として自立するためには何をしたらよいか考える。 ・伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係を考察する。 ・働くことの意味、社会に参加することの意義と必要性を理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。 ・私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 ・世界のおもな政治体制について理解し、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 	6	定期考査 授業ノート 授業の取組

6	<p>第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 私たちの町と政治</p> <p>①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と日本の安全保障 ③冷戦終結後の防衛問題 ④平等に生きる権利 ⑤自由に生きる権利 ⑥豊かに生きる権利 ⑦新しい人権 ⑧基本的人権と公共の福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 ・平和主義をめぐって、どのような動きがあったのかを理解する。また、自衛隊をめぐる問題について理解する。 ・日米安保体制はどのような背景から生まれ、どう変化してきたのか理解する。 ・身のまわりの偏見や差別・不平等、自由権が保障されていない問題について調べ、その解決策を考える。 ・社会権が私たちの生活をどのように変えたかを考える。また、新しい人権にはどのようなものがあるか理解する。 ・基本的人権と公共の福祉の関係について理解し、社会における望ましい解決策を、さまざまな情報手段を活用して調べ、話し合う。 	8	定期考査 授業ノート 授業の取組
7 ・ 8	<p>⑨国会の運営と権限 ⑩内閣と行政の民主化 ⑪裁判所と人権保障 ⑫地方自治と住民の福祉 ⑬選挙制度の現状と課題 ⑭世論の形成と政治参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国権の最高機関である国会について理解する。 ・議院内閣制のしくみ、内閣の組織と権限について理解する。 ・公正な裁判のための制度について理解する。憲法を守るための裁判所の権限について理解する。 ・地方自治の意味と課題について当事者として具体的に考える。 ・国会議員の選挙制度のしくみと課題について理解する。 ・国民が政治に参加する方法について考察する。 	8	定期考査 授業ノート 授業の取組
9	<p>第4章 国際政治の動向と日本の役割 国際政治の動向と私たちにできること</p> <p>①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③第二次世界大戦後の国際社会 ④冷戦終結後の国際社会 ⑤核兵器の廃絶と国際平和 ⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦国境と領土問題 ⑧日本の役割と私たちの生き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主権国家とはどのようなものか、国際社会における国際法の役割と限界について理解する。 ・国連の成立、役割と課題について理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 ・核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならぬかを理解する。 ・民族や宗教の対立による紛争にはどのようなものがあるか、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 ・国境と領土問題や日本の領土問題について理解する。 ・日本の外交の基本方針を理解し、日本の役割について考える。 	8	定期考査 授業ノート 授業の取組
10	<p>第5章 現代の経済社会と私たちの生活 私たちの町と経済</p> <p>①経済と私たちの生活 ②経済体制の変容 ③現代の企業 ④市場のしくみ ⑤国民所得と私たちの生活 ⑥景気変動と物価の動き ⑦財政のしくみと税金 ⑧日本の財政の課題 ⑨金融機関のはたらき ⑩戦後日本経済のあゆみ(1) ⑪戦後日本経済のあゆみ(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と密接にかかわる経済の基本的なしくみを理解し、資本主義経済と社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業の活動内容、企業の負っている社会的責任について理解し、株式会社の特徴についてまとめる。 ・市場の基本である「需要と供給との関係」について理解する。 ・国民所得について理解する。 ・景気変動について理解し、経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考える。 ・政府はどのような経済的役割をもっているかを理解する。 ・財政にはどのような機能と役割が求められているか、日本の財政の課題は何かを理解する。 ・金融機関の役割及び中央銀行の金融政策について理解する。 ・第二次世界大戦終結から現在まで、日本の経済発展のあゆみについて理解し、現在の日本経済の課題について考える。 	8	定期考査 授業ノート 授業の取組
11	<p>⑫技術革新の進展と産業構造の変化 ⑬中小企業の現状と役割 ⑭食の安全とこれからの日本の農業 ⑮雇用と労働問題 ⑯労働環境の整備 ⑰公害の防止から環境保全へ ⑱消費者問題と消費者主権 ⑲社会保障と福祉社会 ⑳これからの社会保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察する。 ・中小企業の現状と役割について理解する。 ・日本の農業政策の推移を理解し今後の農業問題について考える。 ・労働運動の展開と労働基本権について理解し、近年の雇用事情の変化について考える。 ・雇用事情の変化と労働問題について考察する。 ・公害の原因と、それに対する国・企業の責任について理解し、公害を防止する方策について考える。 ・契約する際に必要な自覚について考え、消費者問題に対する企業の責任や国の対策について理解する。 ・日本の社会保障制度の特徴、少子高齢社会について理解する。 	8	定期考査 授業ノート 授業の取組

12	第6章 国際経済の動向と日本の役割 国際経済の動向と私たちにできること ①国際分業と貿易 ②国際経済体制のあゆみ ③国際収支と為替相場 ④国際経済の動向 ⑤進む地域的経済統合 ⑥発展途上国の経済と南北問題 ⑦国際社会のこれから	・自由貿易と保護貿易の違いについて考え、自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割について理解する。 ・自由貿易のために国際的な協調体制がとられた経緯と、国際収支の変化、為替相場の変動による経済の影響について理解する。 ・貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について理解する。 ・日本の貿易について理解し、貿易の拡大とそれともなう貿易摩擦について、具体的事例をあげて考察する。 ・国際経済機構や地域的経済統合について理解する。 ・南北問題の原因、発展途上国のかかえている問題について理解し、南北問題解決のために日本は何をすべきか考える。	8	定期考査 授業ノート 授業の取組
1 ・ 2 ・ 3	第7章 民主社会に生きる倫理 私たちの悩みと倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的な考え方 ③近代の西洋社会に見られる考え方 ④近代市民社会から大衆社会へ ⑤他者とともに生きる ⑥豊かな社会の実現に向けて 第3編 ともに生きる社会をめざして ケーススタディ ①社会保障と消費税 ②震災から復興への道のり ③人口問題と私たちの未来	・哲学や宗教の役割を理解するとともに、人生を豊かに生きるとはどういうことなのかを多角的に考察する。 ・日本の伝統意識を理解し、生活の中での仏教や儒教、西洋思想の影響について、具体的事例をあげて考察する。 ・人間の尊厳や科学的なものの考え方、民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深める。 ・平等な社会の実現には、偏見を取りのぞき、主体的に努力することが求められていることを理解する。 ・差別を生み出す偏見について考え、それを克服して、ともに生きるために私たちは何をすべきか、自分自身の問題として考える。 ・教科書に掲載されている図版や写真・資料などを適切に使用し、政治課題としてよく取り上げられる消費税について考えたり、人口問題を通して私たちの未来を考察したりする。 ・調べた内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。	10	定期考査 授業ノート レポート 授業の取組

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

- ・グループでの活動などの際にレポートを提出してもらいます。
- ・定期考査終了後に授業ノートの提出を課します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・普段の授業の取り組み（授業への参加状況や態度） ・授業ノートの提出 などから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

現代社会を学ぶことで、現在の世の中の仕組みやさまざまな事象の要因を知ることができます。それらの知識は、みなさんが卒業してから必ず役に立ちます。授業を通して身の回りの出来事に興味・関心を持ち、自分なりの見方や意見を持てるようになりましょう。

(担当：猪股 博一)

令和5年度シラバス（保健体育） 学番 39 新潟県立正徳館高等学校

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)				
副教材等	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)				

1 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 指導の重点

- ・授業前後の移動や着替えを早くし、チャイムスタートを目指します。
- ・頭髪を整えるとともに体操着や靴を正しく着用し、規律正しくかつ安全に授業に参加する態度を育てます。
- ・大きな声で点呼や体操を行うことを目指します。(号令に合わせて体操、ストレッチができるようになることを目指します。)
- ・トレーニングを毎時間実施し、基礎体力の向上を目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	オリエンテーション 集団行動 体づくり運動	整列、移動、列の増減等 体ほぐしの運動 体力を高める運動	・1年間の学習活動について理解する。 ・集団行動がスムーズにできるようにする。 ・健康の保持増進や体力の向上を図る。自己の体力や生活に応じた課題を持ち、様々な運動を行う。	6	学習ノートの記録 活動観察 スキルテスト
5	陸上競技	短距離走(100m・200m) 中距離走(800m・1500m) 跳躍(走り幅跳び) 投てき(砲丸投げ)	・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、各種目特有の技能を高める。	6	練習計画の立案 記録の計測 学習ノートの記録 活動観察
6	球技(ゴール型) 球技(ネット型)	バスケットボール 卓球	集団的技能(組織的な攻撃および守備) ・味方や相手を見ながら状況に応じた攻撃や守備ができるようにする 試合での攻撃と守備 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開することができるようにする。	4	練習計画の立案 学習ノートの記録 活動観察
7	球技(ゴール型) 球技(ネット型) 体育理論(豊かなスポーツライフの設計)	バスケットボール 卓球 生涯スポーツの見方・考 え方	集団的技能(組織的な攻撃および守備) 試合での攻撃と守備 ・社会の変化にともなうスポーツの役割と楽しみ方の変化を理解し、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方について理解する。	4 2	ゲーム作戦の参加状況 スキルテスト 評価問題
8 9	球技(ゴール型) 球技(ネット型)	バスケットボール 卓球	集団的技能(組織的な攻撃および守備) 試合での攻撃と守備	8	ゲーム作戦の参加状況 学習ノートの記録 活動観察
10	陸上競技	長距離走	・自己に適したペースを維持して、長い距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。	10	練習計画の立案 学習ノートの記録 記録の計測

11	球技（ネット型）	バドミントン バレーボール	試合での攻撃と守備 ・状況に応じたラケット操作や安定した用具の操作と連携した動きによって、空間を作り出すなどの攻防を展開することができるようにする。 集団的技能（三段攻撃とその防御） ・空間を作り出すなどの連携した動きができるようにする。	10	練習計画の立案 学習ノートの記録 活動観察
12	球技（ネット型） 体育理論（豊かなスポーツライフの設計）	バドミントン バレーボール ライフスタイルに応じたスポーツ	試合での攻撃と守備 集団的技能（三段攻撃とその防御） ・ライフスタイルとスポーツのかかわり、自分に合ったスポーツライフの設計のしかたについて理解する。	4 2	ゲーム作戦の参加状況 スキルテスト 学習ノートの記録 評価問題
1 2 3	球技（ゴール型） 球技（ネット型） 体育理論（豊かなスポーツライフの設計）	バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン 日本のスポーツ振興 スポーツと環境	試合の運営 ・ゲームのルール、試合方式、運営の仕方を理解し、協力して試合を行うことができるようにする。 ・現在にいたるまでの日本のスポーツ振興の流れや、地域におけるスポーツクラブの状況について理解する。 ・スポーツと環境問題について考え、スポーツ場面で環境を保護するために私たちができることについて理解する。	12 2	練習計画の立案 ゲーム作戦の参加状況 活動観察 評価問題

計 70 時間（50 分授業）

4 課題・提出物等

- ・実施種目によって記録用紙等を提出する場合があります。
- ・各学期ごとに、振り返りシートを記入し、提出することとなります。

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間との課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けることができる。	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。
以上の①～④の観点で踏まえ、観察、提出物、実技テストなどから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

これまでと同様に体育は、単に「足が速い」とか「バスケットボールがうまい」など運動能力や技術の高さだけでは評価は高くなりません。欠席をせず、みんなと協力し、誰にでもできることを一生懸命授業に取り組むことが必要となります。また、「やらなければならないこと」は必ず最後までやってもらいます。妥協せず全力で取り組みましょう。体育の授業を通し、自分の限界に挑戦し、コミュニケーション能力を高め、人間力を高めてもらいたいと思います。また、最上級生として下級生の模範となるような授業になるよう努力してください。

（担当：野崎 尚史、平野 淳一）